

令和元年度 宇多津町社会福祉協議会事業報告

1. 概 況

「団塊ジュニア」が全員高齢者となる2040問題が迫るなか、変化する家族のあり方・地域間の関係希薄化による社会的孤立及び経済的困窮の増加等による社会的構造の変化が継続し深刻化しつつある現在、社会福祉協議会として、ニッポン一億総活躍プランに基づく互いに支え合う「地域共生社会」の実現を目指し、誰もが安心して安全に暮らすことのできる社会づくりを果たすため、各種地域福祉事業の推進に努めた。生活支援体制整備事業においては、昨年度地域の実情に合った支え合いのしくみとして「平山お助け隊」が、活動を開始し、その立ち上げの経緯及び成果について「地域支え合い活動実践報告会」を開催して広く町民に対し「地域共生社会」の実現の大切さや必要性について周知を図ったが、今年度は、段階的な事業の拡充を目指し、高齢者や子どもを焦点とした町内にあ
る地域資源の調査を実施し、大きな地図上に「資源」を落とし込む作業を行うとともに、配達可能な商店等を記載した「生活に役立つ便利な情報マップ（配達編）」を作成し、町内全戸に配布した。

また、社協運営基盤となる社協資産について、介護収入の減少や各種の諸経費の増加等により年々減じている現状であるが、より魅力ある事業転換を創造し利用者等の増加を図るとともに、現在ある事業の合理化を検討し、不採算事業の廃止等も視野に入れた効率化を図り、今後社協運営基盤の整備を図っていききたい。

そして平成30年度は、社協事務局において職員3名の退職、今年度当初に1名の退職が出て、その後新規職員を採用したが正規職員2名を除く、臨時職員に採用した延べ5名の職員が、連鎖的に退職を繰り返す状況が生起した。これについては、人・モノによる職場環境の不備及び採用試験での選別能力不足等反省点が挙げられるが、速やかに欠員職員の補充を行い、職場環境等の改善を図り態勢を確立し、さらなる宇多津町の地域福祉の推進・拡充に寄与していききたい。

令和元年度事業等の細部は、次の9項目を重点に実施した。

- (1) 地域福祉活動の推進
- (2) 介護保険事業の充実
- (3) 障害者自立支援事業の充実
- (4) 生活困窮者自立相談支援事業の推進
- (5) ボランティア活動の推進
- (6) 福祉関係団体等活動協力と連携
- (7) 法人運営の強化
- (8) 権利擁護の推進
- (9) その他福祉活動への協力

2. 事業経過報告

(1) 地域福祉活動の推進

① ふれあいいきいきサロンの推進


町内の高齢者や障害者等、地域の中で孤立して閉じこもりぎみに暮らしている人たちが、いきいきと元気に暮らせることを目的としてサロン活動を行った。年度毎の箇所数は次のとおりであり、令和元年度は2か所減、1箇所増である。サロン代表者の後継適任者不足が今後の課題となった。

年 度	箇所数
平成27年度	27
平成28年度	29
平成29年度	28
平成30年度	33
令和元年度	32

また、年1回のプログラムメニュー研修会を実施し、各サロンのより魅力的運営に寄与した。

研修会名	実施日	参加者数
目からうろこ ふろしき再発見!~結び方・包み方~	令和元年9月9日(月)	40人

② 共生型サロンの推進

前年度に引き続き、毎月第1・第3水曜日、地域で暮らす高齢の方も、子育て中の親子も、障がいのある方も、誰もが自由に集い交流できるみんなのサロン「とも  とも」の活動を行なってきた。

あみのうら交流センターで開設している「とも・とも」も定着し、楽しみに参加してくださる方も増えてきた。折り紙の時には、若いお母さんが高齢者に折り方を教えてくれたり、高齢者は子どもたちの表情やかわいい仕草に元気もらい、笑顔になったりする場面がたくさんあった。また、季節行事（流しソーメンと盆踊り）や餅つき大会、あん餅雑煮も好評で、大勢の子どもたちや高齢者の参加があり、交流を深めることができた。気軽に集い、交流できる「とも・とも」を楽しみに集ってくださる方々の思いを大事にしながら、今後も地道に活動が続けていきたい。

【みんなのサロン 参加人数】

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
親	3	2	9	13	38	7	8	7	18	17	10	0
子ども	3	2	9	17	70	10	10	7	22	20	10	0
高齢者	13	9	20	19	21	14	19	13	17	17	18	0
VO・スタッフ	5	2	5	7	27	4	5	4	16	2	4	0
合計	24	15	43	56	156	35	42	31	73	56	42	0

③ 地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制構築事業

香川おもいネットワーク事業を生かし、社会福祉法人・社協・民生委員との連携により、何でも相談できる窓口（福祉まると相談窓口）を町内に5か所（社協・陽だまり・寿楽荘・いきいき荘・マイルドハート21）設置するとともに、「巡回型福祉まると相談」として、民生委員・児童委員、施設法人及び社協がチームを組み、町内の居場所を訪問し困りごとをキャッチする取り組みを行いアウトリーチの強化を図った。また休けい所「陽だまり」を開設し、住民主体の居場所として週1回運営を開始した。

④ 各種相談事業の実施

民生児童委員会、弁護士及び身体障害者相談員の協力を得ながら次の6種類の相談事業を実施した。

相 談 の 種 類	相 談 員	相 談 日	相談実績
一般相談	民生児童委員	毎週火曜日	0件
弁護士相談	弁護士 安西 敦	2カ月に1回	27件
身体障害者相談	県身体障害者相談員	第3金曜日	0件
介護相談	介護支援専門員 訪問介護員	月曜日～金曜日	354件
ボランティア相談	ボランティアコーディネーター	月曜日～金曜日	14件
電話相談	社協事務局	月曜日～金曜日	187件

介護相談や電話相談が減少した。弁護士相談は、1回6人の相談枠であるが概ね75%の相談実績でやや増加した。

⑤ 生活福祉資金の効果的運用

県社協の委託事業として、生活福祉資金の貸し付け事業を実施している。新規借入件数は昨年度に比し、増加している。資金ごとの貸し出し状況は次のとおりである。

〈生活福祉資金貸付事業〉

借入資金の種類	年度末件数	元年度中 新規借入件数	30年度中 新規借入件数
総合支援資金	17	0	0
緊急小口資金	18	12	7
臨時特例つなぎ資金	0	0	0
教育支援資金	13	2	1
福祉資金	16	4	1
不動産担保型生活資金	0	0	0
国民年金の任意加入を含む年金の貸付	0	0	0
計	64	18	9

⑤ 日常生活自立支援事業の実施

県社協の委託事業として、高齢者や知的・精神障害者で判断能力に不安がある人を対象に金銭管理・福祉サービスの手伝いを行う日常生活自立支援事業を実施した。年度ごとの利用者状況は次のとおりである。

年 度	高齢者	知的障害	精神障害	その他	計
平成27年度	17	6	15	1	39
平成28年度	19	5	14	1	39
平成29年度	33	4	11	1	49
平成30年度	25	4	12	1	42
令和元年度	22	6	11	3	42

判断能力の低下等により、日常生活自立支援事業から成年後見制度への移行を親族等と相談し、成年後見制度への移行をした方や移行を考えて動き始め方、また成年後見制度の利用はせずに親族へ通帳等の預かり物を返還した方等により、高齢者の利用者が減少した。今後日常生活自立支援事業を利用開始時は判断能力があったが、年数の経過とともに判断能力の低下が見られる方の成年後見制度への移行等、親族と調整しながら対応していく必要がある。

⑦ 高齢者福祉サービス事業の充実

在宅の高齢者及び障害者の日常生活や自立に向けた取り組みを支援するために次の事業を実施した。老人配食サービスについては、配食していただくボランティアの募集など、当日の配食に支障のないように努めた。

〈老人配食サービス〉

区 分	老人配食サービス事業	車椅子貸出事業	「陽だまり」お風呂	うたんぐら
平成27年度	4,919食(131名)	39件		2名
平成28年度	5,124食(114名)	48件	5名	
平成29年度	4,800食(122名)	42件	7名	
平成30年度	5,515食(132名)	36件	9名	
令和元年度	6,039食(136名)	38件	8名	
備 考	毎週水曜日配食 (月4回)		#1:(月)(水)(金) #2:(火)(木)(土)	毎週3回 月・水・金

また、共同募金の助成金により、高齢者見舞金配布事業を実施し、80歳以

上の一人暮らし高齢者に対し、3千円を民生児童委員の一人暮らし高齢者名簿の提出に基づき、配布した。

〈高齢者見舞金事業対象者〉

区 分	一人暮らし老人 (80歳以上)
平成27年度	181名
平成28年度	179名
平成29年度	188名
平成30年度	203名
令和元年度	203名

⑧ ファミリー・サポート・センター事業

(地域の方が会員となって、一時的な子育てを助け合う有償ボランティア組織)

(令和元年度登録会員数、活動件数、援助活動内容と件数の内訳)

登録会員数 (平成31年4月～ 令和2年3月末)	おねがい会員	271名	合 計 428名
	まかせて会員	110名	
	どっちも会員	47名	
活動実績 (平成31年4月～ 令和2年3月末)	援助活動件数の内訳		活動件数
	① 保育施設等への送迎とその前後の預かり		107件
	① 自宅・祖父母宅への送迎		87件
	① 子供の習い事等への送迎		60件
	① 児童クラブへの送迎とその前後の預かり		56件
	① 保護者等のリフレッシュのための送迎		22件
	① 児童デイサービスへの送迎とその前後の預かり		8件
	① 保護者等の外出の場合の援助		6件
	① その他		16件
	合 計		358件

2月下旬以降新型コロナウイルスの影響により活動件数が大幅に減少し、新規サポートの依頼もなくなっている。ファミサポで加入している保険では、感染症にかかる補償はないため、センターとしても両会員の健康及び安全の確保を優先しながら、今後もセンター事業を進めていく。

また、令和元年10月より始まった「幼児教育・保育の無償化」に伴い、ファミサポの講習において、「緊急救命講習及び事故防止に関する講習について、援助を行う会員全員に対して、少なくとも5年に1回必ず実施」するようにと具体的な数字が書き加えられるなど、「質の確保」が重点視されている。子どもを預かることのできる方(まかせて会員・どっちも会員)の新しい成り手の拡充を図るとともに、今後も現会員さんの研修時間が、厚生労働省の推奨する研修時間数に近づくよう、会員に講座の受講を促すとともに、預かり時の事故防止等について、引き続き講習会を実施していきたい。

(令和元年度研修会、交流会回数と内容)

	回 数	参加人数	内 容
研修会	3回	58名	養成講座3回(坂出合同)
交流会	4回	272名	とも・とも合同交流会・ファミサポ交流会など
講演会	2回	118名	アンガーマネジメント講座

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止と利用者の健康及び安全の確保を優先し、3月に予定していた会員ミーティング・スキルアップ講座・交流会等は中止。

⑨ 地域支え合い推進(生活支援体制整備事業)

平成29年4月に協議体(地域支え合い「陽だまり うたづ」)を設置し、2年間活動してきた。協議体構成員には2年間の委嘱期間が終了したため、再度平成31年4月に委嘱状を交付し、生活支援コーディネーターとともに、ちょっとした生活の困りごとが、住民同士の支え合いや助け合いで解決できるように、協議体(地域支え合い「陽だまり うたづ」)を5回開催した。

今年度は、町内にある地域資源を高齢者や子どもに焦点をあてて調べ、大きな地図上に落とし込む作業を行った。地図上にまとめた「生活に役立つ便利な情報マップ(配達編)」として、配達してくださる商店等をA3判の地図にまとめ、全戸配布することにした。協議体の名称をより地域の方々になじむように、協議体「地域支え合い うたづ」と改称して今後活動していくこととした。

⑩ 子どもの未来応援事業の推進

子ども食堂運営事業「陽だまり食堂」として毎月1回開催し、「地域で子どもに関心を持つ人や、見守る人の目を増やすこと、家庭・学校以外の子どもの居場所をつくり、子どもを一人にさせないこと、子どもが様々な大人と関わる機会・体験を増やすこと」を目指した。参加費はおとな300円、こども100円で、参加者数の実績については次のとおりである。

(令和元年度子ども食堂運営事業 参加者数実績)

開催月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
子ども	17人	18人	17人	24人	17人	14人	13人	21人	13人	17人	23人	0人
おとな	3人	3人	6人	8人	5人	3人	7人	7人	6人	7人	9人	0人
ボランティア	8人	9人	11人	10人	19人	11人	9人	8人	6人	6人	12人	0人

また食事の提供に加え、季節ごとのイベントや食に関するワークショップにも取り組み、子どもたちへ様々な体験をしてもらいながら、関係づく

りに努めている。また食材については町内寄付者や市外農家から多数の支援をいただいた。

次年度は、参加者や保護者にもアンケート調査を実施し、ニーズを把握するとともに、ボランティアや関係機関との話し合いを持ち、今後の陽だまり食堂の運営について協議し、さらなる充実を図っていきたい。

⑪ うたづっこ育児用品レンタル・サポート事業の推進

宇多津町の未来を担う子どもたちの健やかな成長を支援し、保護者の経済的負担を軽減することを目的に、チャイルドシート・ジュニアシート・ベビーカーのレンタル事業を行っている。

(令和元年度 育児用品保有数と利用数)

	購入台数	寄付台数	合計保有数	返却数	貸出件数	在庫(年度末)
チャイルドシート	66台	21台	87台	75台	158件	4台
ジュニアシート	10台	4台	14台	10台	21件	3台
ベビーカー	32台	19台	48台	51台	93件	6台

今年度は利用希望者に対し保有数が不足することなく、この事業を進めることができた。今後も、この事業が円滑に進むよう家庭で不要になった育児用品の寄付受けについて広報等で協力を依頼していきたい。

(2) 介護保険事業の充実

① 訪問介護事業（ホームヘルパー）の充実

利用者の高齢化に伴うご逝去や体調不良による入院及び施設入所等、利用減少が継続し、また昨年10月の介護保険改正による収入減少のため、昨年と同様、収入が13%減になっている。また、総合支援事業の利用者増加に伴い、今後は一層のサービス向上と利用者の獲得増加を図っていかなければならない。そのため高齢化する登録ヘルパーの退職に対応する要員確保及び事業拡大が図れる人材養成の継続が必須である。

(単位：千円・人数)

年 度	訪問介護事業収入	前年比	延べ人数	軽度生活支援事業収入
平成 27 年度	12,200	22.5%	421	1,028
平成 28 年度	11,835	▲ 3.0%	415	636
平成 29 年度	9,548	▲19.4%	351	606
平成 30 年度	8,677	▲ 9.1%	329	426
令和元年度	7,559	▲13.0%	363	288

② 居宅介護支援事業の充実

居宅介護支援事業の利用者及び事業収入の推移は次のとおりである。延人数は、1.4%増であり、事業収入は前年度比6.0%増となった。平成30年度は、要支援者数263名（収益：1,020千円）、要介護者数は、551名（収益：5,940千円）で、令和元年度は、要支援者数235名（収益：884千円）、要介護者数は、588名（収益：6,465千円）である。令和元年度は、利用者が、在宅から移動され施設入所4名、ご逝去9名と例年になく契約終了の多い年であったが、要介護者の新規利用者が増加したため事業所収入が増加した。今後も利用者が地域で安心して生活できるように支援をしていく。

（単位：千円・人数）

年 度	事業収入	前年比	対象者数(延人)
平成27年度	5,971	17.4%	647
平成28年度	6,380	6.8%	720
平成29年度	7,125	11.6%	754
平成30年度	6,960	▲ 2.3%	814
令和元年度	7,349	6.0%	825

② 通所型サービスA事業所の充実

利用者は4名（火曜日2名・木曜日2名）であり、家庭的な雰囲気で行なうデイサービスを楽しみに利用いただいている。事業収入の細部については、昨年度689,400円から、今年度488,800円に減額となった。これについては火曜日利用者の一名が定期通院との兼ね合い等により契約終了となり、また木曜日利用者については2回の入院及び高齢者ゆえの体調不良により当日不参加が重なったためであり、今後も利用減少が続くと予想されるため、サービス継続の可否も含めた検討を重ねて更なる利用者増を目指し、地域包括支援センターとの連携を強め、本サービスの充実発展を期していく。

(3) 障害者自立支援事業の充実

① 障害者福祉サービスの充実

居宅介護については年度後半に少しではあるが増加している。移動支援は昨年度と同様な推移である。また同行援護については、平成29年12月以降、利用者が施設入所したため該当がいなくなる等のため減少となった。利用者の加齢とともに障害保険から介護保険への移行も考えられることから各相談支援事業所への働きかけが必要である。訪問介護と同様に事業拡大の為、登録ヘルパーの人材確保の継続が必須である。各年度のサービスごとの収入の結果は、次のとおりである。

(単位：千円)

年 度	居宅介護	移動支援	同行援護	難病患者等	計
平成27年度	1,421	301	431		2,031
平成28年度	1,569	395	683		2,647
平成29年度	1,149	220	471		1,840
平成30年度	1,008	230	0		1,238
令和元年度	965	221	0		1,186

(4) 生活困窮者自立相談支援事業の推進

① 包括的かつ継続的な相談支援

生活困窮に関する課題は、経済的な問題のみならず社会的な孤立や医療問題、DV、障害者などが折り重なって、複合的な問題を抱えており、本人だけでなく世帯全体が困窮しているため、世帯全体の支援に志向し、継続して取り組んでいる。相談実績は以下のとおりである。

	年間合計 (人)	男性	女性	～10代	20代	30代	40代	50代	60～ 64歳	65歳以上	不明
令和元年度相談 件数(内訳)	35	18	17	3	4	2	6	7	6	6	1

② 生活困窮者支援を通じた地域づくり

生活困窮については、福祉教育や個別支援を通じて理解者を地域に増やしていく事で、支え合いの輪を拡げて、誰もが住み易く、排除しない地域を創造していくことが重要であり、支える側と支えられる側が互いに支え合える地域づくりを目指した。

③ 香川おもいやりネットワーク事業の推進

社会福祉協議会が社会福祉法人施設や民生委員・児童委員と繋がり、支援を必要とする方を「地域でトータルにサポートする仕組み」をつくり、「香川型福祉でまちづくり」を目指し、下記の会議を開催した。

〈香川おもいやりネットワーク事業 宇多津担当者会 開催状況〉

開催日	場 所	会議内容	参加者
令和元年 10/28	あみのうら 交流センター	(1) 生活保護制度について (2) 平成30年度 地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制構築事業振り返りについて	民生委員・児童委員 寿楽荘、いきいき荘 マイルドハート21 エコランド鶴多津 中讃保健福祉事務所 保健福祉課

地域力強化活動	令和元年11月21日(水)	巡回型ふくしまるごと相談
	令和元年12月17日(火)	巡回型ふくしまるごと相談
	令和2年 1月22日(水)	巡回型ふくしまるごと相談
	令和元年10月15日(火)	「休けい所陽だまり」 振り返り会議

(5) ボランティア活動の推進

① ボランティア連絡協議会への参加及び協力

事務局として、毎月の定例会、総会及び研修会等に積極的に参加し、ボランティア活動を推進した。坂出青年会議所と連携し、顔の見える関係づくりを行った。加入団体は、26団体となっている。

② 福祉・ボランティア体験の推進

福祉・ボランティア体験として「うたづっこふくしセミナー」の開催、「ボランティア体験」の実施、「福祉体験学習」、「ボランティア銀行」の運営を次のとおり実施した。

a うたづっこふくしセミナー

	開催日	場 所	体 験 内 容	参 加 人 数
第15回	7/20	保健センター	中学生位までの児童・生徒を対象とした福祉体験セミナー	約300名

b 宇多津北小学校福祉体験学習会

開催日	場 所	体 験 内 容	参 加 人 数
2/17	北小学校ときめき広場	車いす体験 視覚障害者疑似体験	4年生全員 100名

c 夏休み中学生ボランティア体験学習

26の行事が延べ38日間行われ、516人がボランティアとして参加した。町や社協事業以外にも各種団体のボランティアにも参加している。今後も学校と連携を取りながらボランティア活動を推進していく。

	開催日	場 所 等	学 習 内 容	参加人数
1	8/4 他1回	JR 駅前清掃	駅前清掃ボランティア体験	185名
2	8/7 他3回	あみのうら交流センター	老人配食給食配達ボランティア体験	4名

3	7 / 2 2 他 1 回	県道 33 号線	さわやかロード清掃活動	3 7 名
4	8 / 1	サポートセンター	はぐはぐランド宇多津での乳幼児との交流体験	1 2 名
5	8 / 6 他 1 回	NPO メロディー	障がい児と交流	4 名
6	8 / 7	あみのうら交流センター	みんなのサロンとともに 高齢者・乳幼児との交流	7 名
7	7 / 2 2 他 1 回	宇中美術室	高齢者のために絵手紙づくり	4 9 名
8	7 / 2 3 他 3 回	ユープラザ他	夏休み宿題お助け隊	2 3 名
9	8 / 2 7 他 3 回	宇夫階神社他	うたづ寺子屋ボランティア	1 3 名
1 0	7 / 2 0	保健センター	うたづっこふくしセミナー	4 0 名
1 1	8 / 2 3	ドリームパラダイス	うどん作りの手伝い	1 0 名
1 2	8 / 6	保健センター	楽しい脳教室の手伝い	2 名
1 3	8 / 3 0	ファミリーサポートセンター	親子クッキングの手伝い	7 名
1 4	8 / 2 7	ユープラザうたづ	ピッコロ ECCO ショー	1 3 名
1 5	8 / 2 3	寿楽荘	高齢者との交流	2 名
1 6	8 / 2 2	いきいき荘	レクレーションの手伝い	3 名
1 7	7 / 2 9	中学校	エコキャップの仕分け	4 4 名
1 8	7/22～ 8/30	中学校	校内プランタンの水やり	4 1 名
1 9	8 / 6	陽だまりデイサービス	高齢者との交流	2 名
2 0	8 / 7	傾聴ボランティア	施設の高齢者の話し相手	4 名

21	7 / 30	陽だまり食堂	子ども食堂のお手伝い	5名
22	8 / 23	地域包括支援センター	集いのひろばでの高齢者との交流	2名
23	8 / 23	認知症カフェ	高齢者との交流	1名
24	8 / 22	デイサービス 歩いっぽ	夏祭りの手伝い・高齢者との交流	3名
25	8 / 7	マイルドハート21	高齢者との交流（喫茶）	1名
26	7 / 29	休けい所 「陽だまり」	高齢者との交流	2名

延べ：38日

延べ：516名

d 勇心酒造(株)ボランティア銀行の運営

ボランティア銀行事業の取組みは、全国的に注目されている。自分の町でも「ボランティア銀行」事業の取組みを行いたいとの問い合わせもあり、取り組みが全国に広がっている。

(a) ハート数の推移

令和元年度のボランティア銀行の預金額は、733,744 ハートとなり、これまでの推移は以下のとおりである。

年 度	ハート数
27年度	988,506♡
28年度	1,165,477♡
29年度	934,606♡
30年度	908,558♡
令和元年度	733,744♡

また、各学校のハート数は以下のとおりである。

学 校 名	平成30年度(ハート)	令和元年度(ハート)
宇多津小学校	228,523♡	101,902♥
宇多津北小学校	440,735♡	454,592♥
宇多津中学校	239,300♡	177,250♥
合 計	908,558♡	733,744♥

(b) ボランティアハートの贈呈先一覧

学校名	贈呈先	贈呈品
宇多津小学校	ケアハウス マイルドハート21	楽器・輪投げ・学習ドリル
	レスパスラボ	子ども食堂運営費用
	スマイルケアセンター	思い出カルタ・唱歌カルタ
	みんなで咲かそう花の会	活動資金(駅前花植え活動)
	宇多津町社会福祉協議会	ファミリーサポートセンター宇多津 アン ガーマネジメント講座開催費用
宇多津北小学校	彩りの家	カラオケチップ
	特別養護老人ホーム寿楽荘	ホワイトボード・絵本
	うたづコールメイ	活動資金
	陽だまり食堂	卓球台・卓球用具・卓球マシーン
	宇多津町社会福祉協議会	善行賞表彰費用
	宇多津町社会福祉協議会	ウォーターサーバー設置費用(熱中症対策)
宇多津中学校	有料老人ホーム浜の風	ナンバーストライク
	ライトハートいきいき荘	卓上ホッケー
	グループホーム富士	ターゲットゲーム
	陽だまりデイサービス	レクリエーション用品(お箸ゲーム・カル タ)
	みんなのサロン「とともに」	活動資金(流しそうめん・もちつき)

③ 防災研修会の開催

香川県防災士会事務局長の高橋真里氏を講師にお招きし、防災研修会を開催した。詳細は次のとおりである。

	開催日	場所	講演内容	参加人数
第1回	8/10	保健センター	災害ボランティアセンター運営研修会 講師 香川県防災士会 事務局長 高橋真里氏	40名

(6) 福祉関係団体等活動協力と連携

① 民生児童委員協議会との連携

社会福祉協議会の運営において、民生児童委員との連携・協働は重要不可欠であり、相談事業をはじめとして、思いやりネットワーク事業、高齢者・一人暮らし老人の情報の共有、老人配食サービスの配食、高齢者見舞金配布事業、共同募金活動、生活福祉資金貸付業務等において協力を得て事業を実施した。

今後とも、相互の会合及び研修等に積極参加して、より緊密に連携を継続していく。

各事業ごとの実績については、他の項目で記載した。

② 老人クラブ連合会・身体障害者協会への参加協力

老人クラブ連合会・身体障害者協会の事務局として、総会・定例会、各種行事への協力及び文書管理を行った。

③ 福祉団体への援助

ボランティア連絡協議会加盟の団体へ各種補助金等の提供を行った。

(7) 権利擁護の推進（法人後見事業開始）

認知症高齢者、知的障害者及び精神障害者など意思決定が困難な人の判断能力を補うため、社会福祉協議会が成年後見人等となり、その権利を擁護するための事業であり、平成29年4月より法人後見事業を開始している。

今年度は令和2年3月に第1回法人後見運営委員会の開催を予定していたが新型コロナウイルスの影響により開催中止となった。

(8) 法人運営の強化

① 自主財源の確保

自主財源確保のため、香典返し等寄付金の使途の明確化を図る周知・広報に努め、令和元年度の香典返し寄付金は増額したが、一般寄付金は減額した。年度ごとの状況は次のとおりである。

(寄付金の推移)

年 度	香典返し		一般寄付		合計金額
	件 数	金 額	件 数	金 額	
平成27年度	8	285,000	7	117,000	402,000
平成28年度	11	410,000	10	342,017	752,017
平成29年度	6	220,000	10	179,000	399,000
平成30年度	5	200,000	9	174,480	374,480
令和元年度	12	600,000	5	80,196	680,196

(会員数の推移)

会員の増加に努め、会費合計は昨年度より増額となった。会費の使われ方を法人、団体、個人に明確に説明し、共感していただくことができた。今後も会員の増加に努めていきたい。

年 度	社協役員	団体会員	個人会員	法人会員	会費
平成28年度	25名	54団体	220名	79法人	620,700円
	170口	770口	506.5口	1,657口	

平成 29 年度	25 名	63 団体	209 名	78 法人	671,100 円
	165 口	867.5 口	549.5 口	1,590 口	
平成 30 年度	24 名	62 団体	203 名	72 法人	608,364 円
	165 口	878 口	543 口	1,420 口	
令和元年度	24 名	72 団体	265 名	82 法人	680,300 円
	190 口	1,611 口	439 口	1,571 法人	

② 広報・啓発活動（情報誌「社協通信」の発行）

社協事業を広く町民に周知する目的で情報誌「社協通信」を毎月発行し町広報と同時に配布した。

③ 各種研修会等への参加

社協職員の資質向上を目指して県社協、県施設協会等の研修会に積極参加した。今後も香川県社会福祉協議会等が開催する研修について、積極的に参加し、専門知識の取得を図っていく。

(9) その他福祉活動への協力

① 共同募金運動への協力

宇多津町共同募金委員会に協力して、街頭募金運動・歳末たすけあいチャリティー即売会等の募金活動に参加し、目標額 4,220,000 円に対し 4,220,118 円を集め、県共同募金会に送金した。又、期間拡大による募金活動「宇多津町内小・中学校応援プロジェクト募金」を 1 月 1 日から 3 月 31 日まで実施し、目標額 1,600,000 円に対し 1,404,826 円を集め県共同募金会に送金した。

本町への助成金は地域福祉推進事業として、2,524,346 円、小・中応援プロジェクト事業として 1,575,441 円であり、以下の事業を実施した。災害見舞金は、愛媛県共同募金会に 4,799 円を送金した。

○社会福祉協議会事業への助成

番号	事業名	事業内容	助成額
1	ふれあいいきいきサロン事業	ふれあいいきいきサロン活動助成費用（1 団体 年間 1.2 万円～2 万円）	300,000 円
2	ボランティア活動推進助成事業	ボランティア連絡協議会活動費用 うたづっこふくしセミナー開催費用	234,346 円
3	一人暮らし高齢者見舞金配布事業	80 歳以上の 1 人暮らし高齢者のお見舞金費用	420,000 円

4	心配ごと相談事業	弁護士相談費用	150,000 円
令和元年度 社会福祉協議会事業 助成額合計			1,104,346 円

○ 各種団体への助成

番号	事業名 / 助成先	事業内容	助成額
1	子育て支援推進事業 (ボランティア「モコモコ」)	核家族化が進む新都市を中心に、地域の人が交流できるイベントを開催し、交流の場を提供する。	170,000 円
2	身障者外出支援事業 (身体障害者協会)	身体障がい者の外出を支援することにより、社会参加を促し、会員同士の親睦を深める活動。	30,000 円
3	外出支援事業 (老人クラブ連合会)	高齢者の外出を支援することにより社会参加を促し、ひきこもりを防止し、仲間づくりを行う。	30,000 円
4	施設訪問事業 (ゆかいな仲間たち)	町内の福祉施設に訪問し、レクリエーション活動、体験交流活動を行い、高齢者との交流を深める。	20,000 円
5	母子家庭等支援事業 (母子寡婦福祉会)	ハイキング、クリスマス会等を開催することで、ひとり親家庭の親子の絆を深め、就職活動にも結び付ける。	80,000 円
6	子育て支援事業 (あおやま保育園)	ジム・マット購入することで、子ども同士、保護者同士でふれあい、関わり、子育ての輪を広げていく。	180,000 円
7	子育て支援事業 (青山幼稚園)	古くなっている掲示板をスノーピーの掲示板に交換することにより、情報の提供を呼びかける。	160,000 円
8	環境衛生推進事業 (宇多津町婦人会)	町民にゴキブリ団子を配布することにより、衛生管理に対する意識を高め、地域の衛生環境を整える。	140,000 円
9	障害者ふれあいサポート事業 (カノンの会)	就労支援している事業所の見学研修を行い、これからの暮らしについて考え、活動の輪を広げる。	40,000 円

1 0	生活発表会用楽器購入事業 (平山こども園)	ピアノを買い替えることによって、音楽の喜びを感じやすく、練習に熱が入り、発表会への意欲も増す。	100,000 円
1 1	障がい児支援事業 (NPO 法人メロディ)	講演会を開催することによって、これまで知らなかった知識を得ることができ、「共感」が生まれる。	150,000 円
1 2	子育て支援事業 (香川短期大学附属幼稚園)	防災対策について見直し、避難時の必要なものや避難場所の環境の充実を図る。	110,000 円
1 3	手話ボランティア養成事業 (手話サークルにここ)	月に2回手話サークルを開催する。将来は、講演会等で手話通訳ができることを目指す。	30,000 円
1 4	障がい者支援事業 (親子クラブわくわく)	正しく「発達しょうがい」について保護者が学び、よりよい生活を目指す。	20,000 円
1 5	障害者支援事業 (ドリームパラダイス)	お揃いのユニフォームを購入することで、施設の団結力を高め、スポーツ活動に活用する。	100,000 円
1 6	傾聴ボランティア養成事業 (傾聴ボランティアコミコミ)	傾聴ボランティア養成講座を開催し、傾聴の理念、技法を学ぶ	30,000 円
1 7	障がい児支援事業 (丸亀擁護学校親の会宇多津支部)	地域で孤立せず、子どもたちと家族が楽しく生活することを目指す。	30,000 円
令和元年度一般募金助成合計額			1,420,000 円

小・中学校応援プロジェクト募金助成金

番号	事業名 / 助成先	事業内容	助成額
1	あいさつの花を育てて、宇多津の町を花いっぱいにする活動 (宇多津小学校)	あいさつを啓発する植木鉢を作成し、「あいさつの花をさかせよう」を合言葉に、直接児童が地域住民の皆様に植木鉢を持っていき、募金のお礼と、あいさつをひろげようとする気持ちを伝える。	8,000 円

2	横断旗購入事業 (宇多津小学校)	横断旗を購入することにより、児童の通学が安全になり、また、保者間の交流、親睦を深めることができる。	68,000 円
3	自転車に安全に乗るための自転車用交通安全シートの作成・配布事業 (宇多津小学校)	3年生以上の児童に、自転車の左側通行の徹底や交差点を渡る時の注意等をわかりやすくデザインしたゴム製シートを作成し、自転車に装着することで、常に安全運転を意識できるようにする。	48,600 円
4	音楽クラブの衣装購入事業 (宇多津小学校)	音楽クラブの衣装は、老朽化しており、新しく購入することにより、児童がフレッシュな気持ちで意欲を持って演奏することができる。	236,260 円
5	自転車に安全に乗るための自転車用交通安全シートの作成・配布事業 (宇多津北小学校)	3年生以上の児童に、自転車の左側通行の徹底や交差点を渡る時の注意等をわかりやすくデザインしたゴム製シートを作成し、自転車に装着することで、常に安全運転を意識できるようにする。	64,800 円
6	鼓笛隊レニヤード購入事業 (宇多津北小学校)	ユニフォームは平成3年の開校当時からのもを現在も着用しており、レニヤードの老朽化が著しいので、少しずつ購入する。	306,000 円
7	講演会開催事業 (宇多津北小学校)	三光病院の海野先生をお呼びして講演会を開催する。3年生から6年生の児童と保護者を対象としてゲーム・ミーネット依存が身体に与える影響について講演してもらう。	30,000 円
8	講演会開催事業 (宇多津中学校)	様々な分野で成功したり、頑張っている人の話を聞かせることにより、中学生に夢や希望を持ってもらい、人権感覚を身に付けてもらう。	300,000 円
9	グッドカードバッジ作成事業	善い行い、積極的な活動、あいさつ等に頑張った生徒に、グッドカードバッジを手渡し、より一層の善行活動につなげる。	34,236 円
10	ボランティア銀行事業 (社会福祉協議会)	小・中学生が地域のボランティア活動に参加することによって、地域とのつながりが強くなり、ボランティア活動を通じて思いやりの気持ちを育む。	479,545 円
令和元年度プロジェクト募金助成合計額			1,575,441 円